

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2023年(令和5年)8月1日

会報 第130号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net【カンボジア事務所】Royal park condo, Street 608, Toul kok,
Phnompenh, Cambodia
(855) 17-599-707【ホームページ】 [カンボジア支援](#) [検索](#)【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) [検索](#)

「カンボジア・フェスティバル2023」に参加

5月3日～4日、代々木公園イベント広場(東京都渋谷区)にて「カンボジア・フェスティバル2023」(主催=カンボジア・フェスティバル2023実行委員会など)が行われ、昨年に続き2年連続で参加した。

コロナが収束していなかった昨年は参加する団体も少なかったが、今年は昨年の倍を超える団体が参加、両日とも天候にも恵まれ、大勢の来場者でにぎわった。

ステージではカンボジア古典舞踊アプサラを始め踊りや歌が人気を集め、カンボジア親善大使の南野陽子さんもステージに立ち歌を披露してくれた。

時代を反映しているのだろうか、参加した団体は企業が多く、特に海外送金、保険などのサービス産業の出店が目立った。参加したNGO団体は昨年と同じ程度だった。

本会のブースではスカーフやTシャツなどがよく売れ、売り子ボランティアをしてくれた多くの会員さんに感謝している。

長かったコロナの自粛期間も終わり、本会の会員さんや知り合いの皆さんが多数見え、久しぶりに旧交を温めた。来年もこの時期に開催が決まっており、今から楽しみにしている。



カンボジア製Tシャツやスカーフがよく売れました



売り子ボランティアの皆さん(3日)

根岸理事長が日立市で
カンボジアについて講演

5月21日(日)、「ひたちとアジアの文化交流を進める会」(茨城県日立市幸町・小澤紀夫会長)の定期総会が「日立シビックセンター会議室」で開かれた。総会後の講演会に根岸理事長が招かれ、「カンボジアの現状と課題」と題して約2時間の講演を行った。

前半はスピーチ中心、後半はカンボジアの様子を写真で知らせるスライドを上映した。

聴衆は同会会員のほか、市広報で呼びかけて参加した日立市民ら約30人が集い、質疑応答も活発に行われた。講演終了後、関係者らと市内の居酒屋で親睦会を行った。



30人が集いました



終了後、関係者の皆さんと懇親会を

民主主義が根付くことを期待し銃弾に倒れた2人の日本人を偲ぶ

NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸恒次

党が第1党、フン・セン率いる人民党が第2党になり連立政権が誕生しました。

しかし1997年にフン・セン第2首相がクーデターを起こしてラナリット第1首相を追放し、政権を奪取しました。

以降、5年に一度行われた国民議会(下院)選挙ですが、最大野党のサムレンシー党が次第に勢力を増し、選挙ではフン・セン首相率いる人民党と拮抗するまで票を伸ばしました。

しかし前回(2018年)の選挙当たりからフン・セン政権による野党勢力への締め付けが厳しくなり、とうとう125議席の全てを与党人民党が独占するに至りました。

そして今年7月23日に行われる第7回目の国民議会選挙では、サムレンシー党の流れをくむ最大野党「キヤンドルライト党」が、何らかの理由により選挙管理委員会への登録が認められず立候補ができなくなりました。多党制による公平な選挙を標榜するアメリカ國務省や日本の外務省からも、深い

懸念が示されています。

丁度この会報が皆様のお手元に届く頃、国民議会選挙が実施されているかと思われそうですが、形骸化した選挙になることは間違いない、カンボジア国民の民意は風前の灯になりそうです。

今から30年

前、銃弾の犠牲になった2人の日本人は、カンボジアに民主主義が根付くことを期待し、汗を流し血を流したのです。このことを決して忘れて欲しくないと思っています。



高田さん殉職30年で献花する日本大使館の植野大使

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば78年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくれました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。

(活動のための諸費用含む)

- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】 少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】 子どものからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。
(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)

里親さんありがとう



Facebook に本会の活動を随時投稿しています

教育支援をお願いします!

「クメール教育里親基金」では、教育支援を希望するカンボジアの子どもたちを、会報紙面で紹介いたします。支援して下さる方は、子どもの名前を添えて、事務局まで一報ください。

(先に里親が確定する場合がありますので、ご承知ください)

また、既に里子をお持ちの方も歓迎いたします。顔の見えるマン・ツー・マンの教育支援です。

☎03・3991・2854
FAX 03・3557・1213

今年は2人の里子が大学生に

「クメール教育里親基金」では、マン・ツー・マンでカンボジアの子どもたちを教育支援している。

原則として高校生までの教育支援だが、最近カンボジアの教育レベルが向上しており、高校卒業後大学に進学する里子が少しずつ増えている。

里子に支給する教育支援金額は変更ないが、足りない分アルバイトして、学費を捻出しているようだ。

今年は2人の里子が大学に入学した。2人とも女性で、1人はコンボンスプー県内、1人はプノンペン市内の大学にそれぞれ入学した。里子全体では、11人が大学で学んでいる。



プノンペン大学に入学したサウ・ダウィちゃん

ピッチ・ケマーちゃん (女の子)



トロバンクエク小学校
(コンボンスプー県)
5年生(11歳)

●両親離婚し父親のみ。兄と姉がいる。現在父親、兄姉と暮らす。
●好きなこと＝絵を描くこと。
●学校まで徒歩で30分。

レート・メンリアン君 (男の子)



トロバンクエク小学校
(コンボンスプー県)
3年生(9歳)

●家族構成＝両親離婚し母親のみ。兄が1人いる。現在母親、兄と暮らす。
●好きなこと＝サッカーをすること。
●学校まで徒歩で30分。

コイ・スレイオンちゃん (女の子)



チュレイホーブナウ小学校
(コンボンスプー県)
5年生(12歳)

●家族構成＝両親と兄がいる。現在両親、兄と暮らす。
●好きなこと＝絵を描くこと。
●学校まで徒歩で20分。

ウット・ヤジン君 (男の子)



トロバンクエク小学校
(コンボンスプー県)
2年生(8歳)

●家族構成＝両親と弟がいる。現在両親、弟と暮らす。
●好きなこと＝絵を描くこと。
●学校まで徒歩で20分。

スーン・シアクレンちゃん (女の子)



トロバンクエク小学校
(コンボンスプー県)
4年生(10歳)

●母親死亡、父親のみ。姉と弟がいる。父親、姉、弟と暮らす。
●好きなこと＝絵を描くこと。
●学校まで徒歩で15分。

ウオツチ

カンボジア

東南アジア競技大会

第32回東南アジア競技大会(Sea Games 32)は5月5日から12日間の日程を終え、5月17日、プノンペンの新国立競技場で閉会式が行われた。カンボジアが獲得した国別メダル数はベトナム、タイ、インドネシアに次いで4位、前回のベトナム大会は8位だったとの面目を保つことができたようだ。続いて6月5日から9日までパラリンピックも開催された。

(写真出典：鈴木春男様のFace book)

順位	メダル数	国名
1	100	ベトナム
2	85	タイ
3	75	インドネシア
4	65	カンボジア
5	55	フィリピン
6	45	マレーシア
7	35	シンガポール
8	25	ラオス
9	15	ミャンマー
10	10	ブルネー

ユニセフ・カンボジアが児童労働の現状に懸念表明

ユニセフ・カンボジアは、カンボジアにおける児童労働の現状に懸念を表明、問題対処に向けた行動を促した。カンボジア社会経済調査によれば、5歳から17歳の子ども17%が労働させられている。カンボジアでは多くの子どもたちが学校を中退し、肉体的にも精神的にもリスクのある危険な仕事に従事しており、憂慮すべき現実となっている。

(写真出典：ポステカンボジア)

働く子ども

カンボジアの就業率は世界最高

カンボジア政府労働職業訓練省大臣によれば、カンボジアの雇用率は99.3%と好調で、世界でもトップクラスを維持している。同大臣は「今日創出された雇用は大半が近代的な産業で、国の経済にも大きな価値をもたらしている」と述べた。

(写真出典：ポステカンボジア)

国民議会選挙投票のため労働者に3日間の有給休暇

カンボジア政府労働職業訓練省は民間企業や雇用主に対し、国民議会選挙の投票に向けて労働者が帰省するために、3日間の有給休暇を認めるように命じた。国民議会選挙は7月23日に予定されており、18の政党が125議席を争う。

(写真出典：ポステカンボジア)

新プノンペン国際空港、2025年に運用開始

プノンペンから南方約20kmに位置する新国際空港「テコ・クロン・タクマウ国際空港」は約50%の建設が完了し、2025年初頭からの運用開始を予定している。同空港は年間500万人の利用を想定した設計がなされ、総面積2、600畝に3本の滑走路とサテライトターミナルを備えた空港になる。



工事中の新国際空港

にぎやかになってきた「パブストリート」



コロナ禍で一時閉鎖状態だったシエムリアップの繁華街「パブストリート」が、ようやく活気を取り戻した。コロナ前に比べると客数はまだ半分程度、人気のレストランでも予約なしに席を確保できるが、それでも一時ゴーストタウンだったことを思えば一歩も二歩も前進。

メコン川のディナークルーズが復活



ディナークルーズ

コロナ禍で営業を中止していたメコン川のディナークルーズが、3年ぶりに復活した。このクルーズは、プノンペンの王宮付近にある船着場を出発してメコン川を約2時間走行、その間に川風に揺られて夕ご飯を食べるコースで、値段は日本円で3千円程度とお値打ちである。プノンペンを訪問の際には是非ご利用を。

中国語学校が人気

道路が混雑しているので何かと思えば、中国語学校が終わり生徒たちの迎えの車で渋滞していた。日本人としてはやや寂しいが、今カンボジアは中国語ブーム。プノンペンに限らず最近では地方でも中国企業の看板が目立つようになっている。カンボジアでは日本語を学ぶ人はもはや少数派、日本製品の看板も中国や韓国に押されてあまり見当たらなくなった。時代の流れはどうしようもない。



中国語学校

サトウキビジュースが子どもたちに人気



サトウキビジュース販売

地方に行くとならず見かけるのが、サトウキビジュース販売車。長いさとうキビの茎を圧縮してジュースにするもので、一杯1000リエル(30円位)で美味しいジュースが飲める。子どもたちにはおやつとして人気がある。

地方では池や川の水が生活水

カンボジアの水道普及は都市部に限定されていて、地方での水源は池や川、雨水に井戸水。雨が降らない乾季は池や川の水をタンクに入れ、車で水を売る商売が繁盛している。日本では災害時に自衛隊の給水車が活躍するが、カンボジアではそれが日常の光景だ。

池の水を売る商売





里子へのプレゼントは 随時受け付けています



- コロナウイルスの影響で、カンボジアへの渡航回数が少なくなりました。しかし、海外送金は問題なく可能ですので、当面は皆様から送って頂いたプレゼント代金を現地の国会銀行口座に送り、現地スタッフがプレゼントをお届け致します。里子からのお礼状(写真付き)もメールで送ってもらいます。
- 事務局に届いた里子プレゼント(品物)につきましては、年2回程度になりますが、空港から持参させて頂きます。暫くお時間を頂きますので、この時期品物を避け、なるべく現金をお送りください。(手紙はメールで、現地に送ります)

現地購入 (プレゼント代を振込票にてご送金ください)

・自転車 (中古品)	7,500 円
・お米 (50キロ入り)	4,500 円
・通学用かばん	3,000 円
・ティシャツ2枚&サンダルセット	2,000 円
・本 (絵本2冊・中学生以上は英語辞書1冊)	1,000 円
・お菓子セット (お菓子の詰め合わせ)	1,000 円
・文房具セット (ノート、筆記用具等)	1,000 円

※上記の代金は、現地での物品調達や里子へ届けるための車代等の諸経費として、原価に20%を上乗せしております。
※里親様が現地に行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

投稿

カンボジアの教育制度 3 ~~就学率~~

理事・佐々木英介 (東京都在住、里親会員)

以下の表は小学校から高校までの退学率や卒業率です。

	小学校	中学校	高校
就学率	97%	43.6%	26.3%
中途退学率	7.2%	16.6%	18.5%
卒業率	87.3%	52.9%	33.1%

(2021年カンボジアの教育・青少年・スポーツ省)

カンボジアでは2001年に義務教育が無償化されたことによって就学率が一気に向上しましたが、その後、農村部を中心に段々と中退率の増加が目立つようになってきました。特にこの10年間は中国資本による縫製や靴などの工場増加に伴って農村部の働き手が次々と賃金の良いそちらへと流れ続けており、その結果、農村では残された老人たちだけでは農業を維持できず、小さな子供たちまで労力として駆り出されざるを得ない状態となっている地域も多くあるようで、それが都市部に比べて多い農村部の中途退学率に影響を与えているように思われます。また、都市部に比べて農村部の教師の数が少ないだけでなくその質が低いこと、更に無資格教員がいることも原因の一つと考えられています。



就学率が高い小学校

教師になるためには中等教育の卒業試験と養成校の入学試験、更に養成校の修了試験をパスする必要がありますが、実際にはそれらの試験では日本では考えられないような多種多様なカンニングが横行しているらしく、これでは教師の質が悪くても当たり前とも言えそうです。

なお、カンボジアの出生登録率は約70%(2014年)でしたが、政府の方針により出生証明書が無料化され更にスマホでも登録できるようになったことによって登録率が上がり不就学の減少が期待されています。

カンボジアでは就学率そのものは確かに上昇してきてはいますが、中学校や高校となるとまだまだかなり低い状態が続いています。確かに貧困もその原因の一つではありますが、それ以上に、保護者の学校教育に対する関心の低さや農家の子供は家の手伝いをすべきだという慣習、更に女子が学校に行くのを好まない風潮もまだ残っており、保護者の意識改革も今後の重要な課題の一つとして挙げられそうです。

また、地域によって小学校はあっても中学校がない場合もあり、これも中学校への就学率の低さに影響を与えていることから、私たちも各地の教育環境と自治体の方針とを図りながら、場合によっては新たな中学校建設プロジェクトとして今後の活動に取り入れる必要があるかもしれません。(了)

里子への教育支援金を 隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では現地スタッフが、教育里子が通学する小学校(25校)を隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費の中から6回に分け、米ドルに換金して教育支援金を届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も出身校の小学校に集まり、支援金を受け取っている。

5月29日～6月3日の間に4月分と5月分を、2人の現地スタッフ(ドライバー含む)が各学校を回り、教育支援金と里親さんからのプレゼントなどを届けた。5月18日には学校が再開し、子どもたちも元気に通学を始めた。



教育支援金を
届けました

り、子どもたちは元気に通学を再開した。6月2日、日本にいる里親さんが久しぶりにオンライン里子訪問を希望される方は事務局に連絡を。

03-3991-2854



学校が再開し校庭で
本を読む生徒たち

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在248人(5月末日現在)の子どもたちを教育支援している。カンボジアの公立学校は今年から新学期が始まり、里子たちも元気に通学している。4月5日、5月17日までの約1ヵ月月半の長い休暇も終わる。

クメール教育里親基金活動レポート

投稿

ポルポト時代を日本で生き延びた カンボジア男性の話(1)

副理事長 及川 英博 (岩手県奥州市在住・里親会員)

カンボジアは今年、ポルポト政権が崩壊して43年を迎えた。そして内戦が終結した1991年から数えて32年になる。

カンボジアは今も年七～五%前後の高度経済成長に湧き、プノンペン市内を見る限り、すでに「戦後」と呼ばれる時期を脱しているように感じられる。

私はコロナ明けのカンボジアを訪問して、ひさしぶりにキリングフィールドを訪れてみた。相変わらず静寂な森には、現地人はほとんど見えず、多くの欧米人だけが目についた。それは、カンボジアにとっては40年前に百七十万人以上のカンボジア人が命を落としたポルポト時代を生き延びた人々の人生を変えてしまったその記憶が、まだ生々しく残っているからのように思えた。ここで私が見聞した「ポルポト時代を日本で生き延びたカンボジア人男性の話」を紹介したいと思う。

メイ・カリアン氏は、1953年カンボジアがフランスから独立した年にポーサット州で生まれた。父は小学校の教師で兄弟は男七人、女二人の九人兄弟。メイ氏は上から二番目の次男だった。

当時のカンボジアはシアヌーク殿下の下で新しい国づくりが始まったところで、みずみずしい息吹にあふれていた。「アポロ11号」の月面着陸の年で、メイ氏は16歳だった。

アポロ月面着陸の翌年、カンボジアは内戦状態に陥った。「広い世界に出たい」というメイ氏の願いに暗雲が垂れ込めた。それでも何とか勉強を続ける道を探し、プノンペンに上京して名門シンワット高校に入学、工科専門学校へと進学した。だがこの頃は戦況が悪化して、米軍による爆撃や学生の動員が始まっていた。

メイ氏は留学を決意した。しかし有力者のコネもなく、資金もない学生にとって留学は夢のようなことだった。しかし、「日本の国費留学は公平な試験で選ばれていた。だから私は日本を選んだ」。

メイ氏は厳しい試験に合格して、四人中一人の国費留学生となった。1974年、ポルポト派政権が樹立する前年だった。(続く)



学生と談笑する
メイ・カリアン氏

投稿

乙氏の失踪

今 紀子 (東京都在住 会員)

近年、地球上では災害や戦争や、信じられないような出来事が起こっている。

ふと、二十年程前の出来事を思い出した。スマトラ地震でスリランカも津波の被害に遭った時の事である。当時、スリランカでボランティア活動をしていたアケミさんに誘われ、ご一緒した。

私たち日本人が活動の為にスリランカに渡ると、いつもサポートをして下さるのが、乙氏だった。彼は幼稚園を経営していて、奥様と二人のお子様がいらっしゃった。

いつも笑顔で、積極的に協力して下さる乙氏。その彼の笑顔の裏に、私は「無常」を感じた。いつもと違うのである。

彼は、津波でお姉様を亡くされている。津波の犠牲になった多くのご遺体のお世話も精神的になさっていた。そのせいだろうか。彼から立ち昇ってくるのは「無常」だった。

私達は、主に奨学生達の安否を確認し、どのような支援が必要か考えながら帰国の途についた。私はその後、スリランカに行く事はなかったが、アケミさんは度々、スリランカに渡った。

そしてある時、乙氏の失踪を耳にした。大方の人は「女の元に走ったんだろう」などと言っている。私は「違う」と思った。

「女」である「無常感」を癒すことができるだろうか。乙氏の全身を包み込むようなあの「無常感」は、人間の手にはおえない物である。彼は「仏」に救いを求めたのではないだろうか。彼は「寺」に駆けこんだに違いない。

スリランカの道端には、当時お釈迦様を祀った祠(ほこら)のような物があり、乙氏は車を止めると、いつも丁寧に礼拝されていた。敬虔な仏教徒なのであった。

月日は過ぎ去り、アケミさんも鬼籍に入られた。乙氏のその後を話してくれる人は、誰もいない。(完)

